

すこやかちゃん



翔永ちゃん (平成17年4月5日生)
 両親/山口純・正子さん〔平松〕
 「我が家にかわいいサンタと
 トナカイがやって来た!!」



広翔ちゃん (平成17年6月9日生)
 両親/伊藤敬一・三枝子さん〔八〕
 「気分は早くも
 メジャーリーガー!?!」



啓貴ちゃん (平成15年9月19日生)
 両親/白石貴弘・香織さん〔蛇園〕
 「何でもTRY!!
 これでもボクは我が家の
 人気No.1だよ♡」

* すこやかちゃんを募集しています *

掲載ご希望の方は、秘書広報課広報広聴班 (〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070) へ。
 対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、保健センター、海上保健センター、飯岡保健センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。



紙上展示室 — 旭モノ語り — 第十回

飯岡石

かつて飯岡の海岸には、飯岡石と呼ばれる丸い平らな石が大量に海岸に打ち上げられていたといえます。この丸みを帯びた灰白色の石は、防風や砂防のための石垣、家の礎石や屋根の置石など広く利用されてきました。昭和の初期まで、海岸一帯の屋根の六割が飯岡石だったともいわれています。古くは古墳の石棺材に使われていたり、板碑に使用するという例もみられます。また、横根から下永井地区にかけての地下三メートル地帯に、多くの飯岡石が埋まっているのは、古来の海岸線の痕跡といわれています。

『飯岡町史』によれば、この石は屏風ヶ浦沖の三か所にその層があるとのこと、昭和四十年代までは、風や波の影響で打ち上げられては流されてという光景が繰り返されてきたそうです。今は海岸の整備が進み、こうした景色は見られなくなりました。

そもそも飯岡の海岸の歴史は、浸食との長い闘いの歴史でもあります。飯岡海岸には、アーチ状のモニュメントが建立されています。てつぺんには二人の少年が配されています。これは昭和の初め、地元の小学生が防波のために、海岸の飯岡石を一つずつ積み上げ波



▲飯岡小東側

止(ハド)を築く活動を行ったことに由来したもののようです。「われらのハド」「飯岡小学校児童堆積地」「どなたでも石を積んでください」と、立て札も立てられました。おりしも、下永井海岸の護岸工事が行われていたとき、子どもたちの献身的な運動、町をあげての護岸に対する熱意が、後の整備事業への後押しとなったと「護岸竣工碑」には刻まれています。

今、見ることができている飯岡石は、海岸近くにわずかに石垣として残っている姿だけになってしまいました。伝えていきたい地域の貴重な歴史的景観のひとつです。

参考文献『飯岡町史 付篇』
 (大原幽学記念館 猪野映里子)

編集後記

最近テレビや雑誌など、いろいろな場面で「脳を鍛える」という言葉を見聞きします。どうすれば鍛えられるのか、非常に興味があわく言葉だと思えますが、いくつになっても脳は、常に刺激を与えることで活性化するというこのようです。広報の取材に行く、今まで知らなかったことに出会う機会があります。そういううちよつとした驚きや感動など、少しでも皆さんに刺激を与えられるよう、広報を通じていろいろな出来事を紹介していきます。

暮らしのカレンダー

- 3日(水) 憲法記念日
- 4日(木) 国民の休日
- 5日(金) こどもの日
- 7日(日) 長熊春のヘラ鮎釣大会
(午前6時30分～ 長熊釣堀センター)
- 14日(日) 母の日
- 21日(日) 東部五市体育大会
- 28日(日) 春のゴミゼロ運動 (午前8時～)